

章	旧CPplot	旧EPplot	課題点	変更点	新要件	新CPplot	新EPplot
template	012345	0123456789012345	0123456789	0123456789	0123456789	01234567890123456789123	012345678901234567890123456789012345678901234567890
0(チュートリアル)シブヤスクランブル	恋人同士のようないサナのセックスから目覚めると、白い部屋だった。カミサマンの命令により、PCに向かい、オムニスを探ることに。場面変わり、いろはと花織の日常(普通の女の子強調)の悪魔の出現。悪魔に襲われそうになり、オムニス登場し、二人を魔法少女へ。チュートリアルバトル。バトル終了後、興奮するいろは達とのやり取りの中、突然オムニス消える。そして白部屋へ。白部屋にカミサマンから「悪魔は魔法少女候補たちを襲うこと、それだけでなく悪魔があふれると世界が終わる」など説明。世界を救う気があるか問われ、とびおは承諾し、アカウント作成してチュートリアル終了。	いさなどのRシーンから白部屋へ。そのままOPムービー。カミサマンの命令により、PCに向かい、オムニスを探ることに。場面変わり、いろはと花織の日常(普通の女の子強調)の後、変異と悪魔の出現。悪魔に襲われそうになり、オムニス登場し、二人を魔法少女へ。チュートリアルバトル①+②	・冒頭に単なるエロシーンなど、インパクトが弱い(よくあるDMM感)ので、ある程度ショッキングなものをにする。 ・「ユーザーとびおーオムニス」という構造自体は変えられないとのことなので、いさなは直接ユーザーに話しかけているという状態に思わせ、「ユーザーオムニス」という構造にし、テンポを重視して流して説明しても混乱しない程度に抑える。 ・グダリを防ぐため、日常パートは見せない。代わりに、逃げ惑う群衆の中の一人の少女として描き、普通の女の子感を出す。 ・そのため、悪魔は一般人も襲うことにする。 ・チュートリアルの評価を最大化するためにOPを最後に持っていく。	・冒頭のシーンをインパクトあるものにするため、エロシーンをショッキングなものにする。 ・「ユーザーとびおーオムニス」という構造自体は変えられないとのことなので、いさなは直接ユーザーに話しかけているという状態に思わせ、「ユーザーオムニス」という構造にし、テンポを重視して流して説明しても混乱しない程度に抑える。 ・このとき一般人も悪魔に襲われると示す。(魔法少女達と比べ優先度は低いが、この世界のとびおとの弱み結びつきのアカウントを持っているため) ・花織といろはを魔法少女に覚醒させる ・魔法少女になるにはスマホにキス(覚醒を覚悟するという間にかスマホにアプリが入ってる) ・『無限の可能性を信じますか?』『はい』『いいえ』の設問をやる。 ・チュートリアルバトル後に、なんやかんやこれから頑張っていくぞ感を出す ・タイトル回収 ・OP ・OP終わりにアカウント作成(シナリオ的にアカウント作成するか、事務的に作成するかを相談) ↓ <※イメージです> 「見とけよ。男の子は、女の子を助けるもんだぜ」 ちょっとだけ汗ばみ始めた手のひらを、マウスから離して2回ほど握って開く。 感触を確かめるように、俺は「はい」のボタンを押したのだった。	・勢いとテンポで、マジカミ世界にだけ込ませる ・いさなどのRシーンを抜きどころは保持しつつ、ショッキングなものにする。 ・白部屋で目覚め、カミサマンと出会う ・このとき、ユーザにとびおを気付かせず、いさながユーザ自身に話しかけているように思わせる。 ・オムニスとして現世に行く。 ・花織といろはが悪魔に襲われそうになっている。 ・このとき一般人も悪魔に襲われると示す。(魔法少女達と比べ優先度は低いが、この世界のとびおとの弱み結びつきのアカウントを持っているため) ・花織といろはを魔法少女に覚醒させる ・魔法少女になるにはスマホにキス(覚醒を覚悟するという間にかスマホにアプリが入ってる) ・『無限の可能性を信じますか?』『はい』『いいえ』の設問をやる。 ・チュートリアルバトル後に、なんやかんやこれから頑張っていくぞ感を出す ・タイトル回収 ・OP ・OP終わりにアカウント作成(シナリオ的にアカウント作成するか、事務的に作成するかを相談) ↓ <※イメージです> 「見とけよ。男の子は、女の子を助けるもんだぜ」 ちょっとだけ汗ばみ始めた手のひらを、マウスから離して2回ほど握って開く。 感触を確かめるように、俺は「はい」のボタンを押したのだった。	【Rシーン編】 ・沙奈とのRシーン ↓ 坂まごころは保持しつつ、ショッキングなシーンに。 ↓ 「あいつあいつ」と溶けていくのをむせるような台詞回し ↓ 【沙奈消滅ステル編】 ・ステル表示：沙奈消滅。 ↓ 【とびお主観：白部屋編】 ・白部屋で目覚め、カミサマンと出会う。 ↓ このとき、ユーザにとびおを気付かせず、いさながユーザ自身に話しかけているように思わせる。 ・静止画芸で、オムニスのスペック説明。 ・オムニスになり、現世に行く。 ↓ 【三人称：カラオケ編】 ・カラオケ終わりで店から出ようとするいろはと花織が会話。 ・デュナミスフィアがウイルス的にスマホに入っていると説明。 ・店から出た瞬間、ゆがみに巻き込まれる。 ↓ 【オムニス主観：ユガミ渋谷編①】 ・オムニス、倒れ降臨。 ・窒息して倒れる一般人を目印にゆがみへ向かう。 ・花織の悲鳴(すでに歪みに入ってるor花織の悲鳴聞いて歪みに行く) ・花織悪魔に襲われそうになっている。 ・いろはは覚醒させる(このとき、魔法少女への変身云々のやり方説明) ↓ このとき、スマホにキスして変身を強調 ↓ ・<バトル1回目：できればいろはだけ、殴るだけの設計にしてほしい> ※要小宮さん相談 ↓ 【オムニス主観：ユガミ渋谷編②】 ・いろはは力に溺れ、油断しピンチに。 ・花織抵抗するも、自分の危機も覚醒。 ↓ このとき、デュナミスフィアが『無限の可能性を信じますか?』を連呼するのを強調 ↓ ・<バトル2回目：二人で、それなりに協力する設計にしてほしい> ※要小宮さん相談 ↓ ・勝利、なんやかんや会話 ↓ OP (期待値5,000文字)	【場面単位で分けるだけで、全部1エピソード内です】 ●Rシーン：沙奈(この時点では知らない少女)とのセックスから始まる。不思議な白い空間、閉える少女、「あいつあいつ」と繰り返される言葉。情事の熱が高まった(射精する)瞬間、視界にノイズ(砂嵐)が走り、消滅が始まった。 ステル挿入①：徐々に溶けていく(転送されていく)沙奈。 苦しみに閉ながら(or無言で)消えていき、それに運動するようにホワイトアウト。(この辺の演出は実際スクリプト組むときに散々悩ましよう) ふと気がつく、不思議な白い部屋に立たされていた。「やっと来たか、この腐れち○ぼ」 突如あらわれた少女(沙奈)は自らのことをカミサマンと名乗り、主人公に決断を強制する。画面には、オムニスと呼ばれる物体。他人事のように聞かされる物体のスペック。決断を求めても、決断を待ちませず。主人公はオムニスとして、魔法少女たちのもとへと飛ばされてしまったのであった。 【三人称】 カラオケ終わりで店から出ようとするいろはと花織。「うゝ〜、やっぱり消えない」と花織がウイルス的に入ってるデュナミスフィアの事に言及し、いろはが「私もそれ入ってる〜!」と自慢げに見せだす。そのときデュナミスフィアから『無限の可能性を信じますか?』と音声流れ始める。「うわ、さらにヤバイことになってんじやん」というタイミングで、花織のスマホからも流れ始め。「うわ、最悪」となったところでドアを開けて店から出るとユガミの中だった。 「いてて……あれ？ここは渋谷？」見渡すと、既に様子がおかしい。「足元にヒト倒れてるし……」ああ、よくあるそういう感じだね。と妙な納得を覚えながら、倒れたヒトをたどって行くと、悲鳴が聞こえた。「きゃあああっ」「え、か、カオリンが捕まっている少女。」 ステル挿入②：既に渋谷が渋谷じゃなくなっていた。歪んだ、なんかよく分からない空間。得体の知れない化物・襲われそうになっている少女。 話半分に聞いていたので「マジか」と驚きつつも、流石にここでのどうにかすんのが俺の仕事だとオムニスは思う。反射的に助けに行きそうになったいろはをオムニスガ止め。「力がほしいか?」的な流れで魔法少女化。「わ、私が魔法少女に!?!」「魔法少女とかありえない?」とかやっつ間に「いいから助けてほしい」と花織は泣き出してたのであった。 <※ここでチュートリアルバトル①-いろはのみでの戦闘-要件としては『敵を選択して殴る』くらいの簡単なガイド> 覚醒したいろは。「すごい、すごいよ!」と油断してるスキに、複数から攻撃を食らう。いろはは「きゃああああ」オムニス「一人じゃ無理そうだな…」オムニスから無言の圧を受ける花織。「いやいや、無理だって!」「人生で一回くらい、主役になろうよカオリン〜ン!」速くの方で、叫んでるいろは。その瞬間、花織の頬を悪魔からの攻撃が掠る。「うわあ、もう、ちくしょー!」やけくそで花織も魔法少女化。さあ、いくよ! って感じでバトルへ。 <※ここでチュートリアルバトル②-いろはと花織での戦闘-要相談> <1. 複数キャラが居ることで出来る系の戦闘ガイド> <2. 簡単な機能説明。アドベントと令呪以外の説明とか。を想定> <3.その他は仕様を起こす方にお任せ>

章	旧CPplot	旧EPplot	挿入点	変更点	新要件	新CPplot	新EPplot
template	こ012345678901	こ0123456789012345678901	こ0123456789	こ0123456789	こ012345678901	こ0123456789012345678901234567	こ01234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901234567
8	<p>※前章からの続き、6人分を描く。サンゴランプアウト</p> <p>チーム全員との対話を通して、ひとりひとりを大切にしたいと改めて思うとびお。</p> <p>12人と和解し、見事に強敵を破る。これによって「自分が彼女たちを守ることに出来る」正しい選択をしている」と考えられる(万能感に包まれる)とびお。その時彼女たちの前に突然、自分とは真反対の真っ白な猫が現れる。</p>	<p>エリザに話しかける。エリザはわりと気にしてなくて、ちゃんと説明しなさいと、詳しい説明を求める。「悪魔は自分たちを襲ってくるため戦わなければならない、それどころか悪魔が溢れば世界が崩壊してしまう」という事情を説明を聞いて、「にわかには信じられない」と言いながらも、「実際に自分の力を悪魔を見た後では、—オムニスの力を信じては次い任せろ」と強気になるエリザ。その対応に本心から謝意をのべるオムニス。「やらなければならないのなら、陰影が生じているのであれば相応の筋はとっているだろう」と切り替った風力に答えてくれる。</p> <p>マリ、マリアンヌに話しかける。とてつもなく不信感を出すマリ。マリアンヌを泣かせたことをリリは怒っている。返す言葉もないとただただ謝るオムニス。その態度に、思いのまま怒りをぶつけるリリ。見かねたマリアンヌがリリをなだめる。</p> <p>「求められる立場のマリアンヌが助け舟を出してくれたことに、更に謝りながら、マリアンヌに「悪魔は自分たちを襲ってくるため戦わなければならない、それどころか悪魔が溢れば世界が崩壊してしまう」という事情を説明する。優しいマリアンヌは「ちょっと怖かったけど」と、事情を理解してくれて、「魔法少女なんて、燃える」と優しい笑顔を見せてくれる。その途端、マリアンヌが許せばいい、と態度をこらりと変えた</p> <p>はなびに話しかける。無言の圧力をかけてくるはなび。ちょっとビビりながらも、謝罪しながら「悪魔は自分たちを襲ってくるため戦わなければならない、それどころか悪魔が溢れば世界が崩壊してしまう」という事情を説明する。すると、はなびは「なんともそんな事はない」と理解を示してくる。</p> <p>ただ「信頼するわけじゃないけど、話は信じあける」と注意され、あくまで協力関係だけだと釘を刺される。それに「はなびと、他の子達のために一緒に戦って欲しい」というオムニス。</p>	<p>・やはり簡単に許されずきなかと思う</p> <p>・それぞれの話で、おもしろポイントがないとダレそう</p> <p>・マリアンヌが「わかってる」と言い出すのなら、もっとマリアンヌにフォーカスしないと説得力が足りないと思われ</p> <p>・オムニスが偽善者に見える</p>	<p>・明確に「許し」を与るのはここだけとする。</p> <p>・論理的な許しで全員を構築すると、矛盾がどくなるので、観念的な話で、自己納得で戻ってくるキャラも入れる。</p> <p>・ダレも本当の意味でオムニスを許さない</p> <p>・少女たち一人一人に大人な対応をされることで、オムニスは自己の小ささや身勝手さを自覚していく。</p>	<p>・キャラの掘り下げ</p> <p>ep1: 『うーん、とりえず、陽影かな(蒼・丹もいるし)』と陽影を説得に行こうとカラオケに行くと、普通に居た。</p> <p>許さなければ、様子を見てやる、という流れに戻ってくる。</p> <p>オムニスは、その丸いんだんだか分からないう体で、儼然のように見せるところから出たかった。</p> <p>ep2: セイラを説得しにA校内を探すと、セイラはまた音楽室から音が漏れてくる通り廊下で佇んでいた。</p> <p>数々つばら観念的な話をしたセイラは、自分で自分の回答を得たのか、『またカラオケに集まる』と言った。ただし、ここを連れて来いと、そう言って立ち去るセイラ。音楽室から漏れてくる音が、ちょっとだけ外れて、季節の終わりが感じられた。</p> <p>ep3: ここは層上に居た。</p> <p>子供に聞いて聞かせるように、オムニスを諭すように怒ってくることある。一通り言った後、「ゆるしてあげよう」とずいぶん、あっさりと言ってくれる(許す、という表現を使うのはここだけ)。「ありがたないけど、なんで?」「ん? ーん」</p> <p>『魔法少女の姿って、良い感じなんだよね。ぶっちゃけ、悪魔御すのは快感だし』『はあ』『オムニスのが楽しくて、カワイイのが正義でしょ』『……それ、どこまで本気?』『さあ? 女の子は秘密を抱えるものなのです』と、煙に巻くだけ煙に巻いてここはあは去っていた。</p> <p>ep4: ゲーセンに行ったら、リリが居た。色々やぶをつけるれるが、最終的にはマリアンヌがやるつーなやるといふ話になる。ただ、ケジメは必要だ。だから今日まで持った。という話。大人に、事務的に対応されたという印象を与えた。</p> <p>ep5: 最後に、花織へ、花織はあれから魔法少女達のあつまりどころか、学校にもあまり来ていないようだった。いろはの案内で花織の家へ行く事に、花織からは殆どパニックとヒステリーの様な対応をされる。オムニスの説得は、ほぼ聞いてもらえず、いろは中心で説得へ。端から見ると、ちょっと狂気を感じるような説得により、諦めたように出てきた花織。いろはに抱きしめられ「分かった」という。オムニスへの敬意はそのままだ、花織も戻ってくる事に。</p> <p>ep6: 魔法少女達全体に、ケジメとして許しを請う。許しはしないが、納得は一応してやろう、という流れに。オムニス自身も、今までだったらむしろ「勝手なこと言いがって」と腹を立てるような状況だったが、魔法少女達個人個人のパーソナルを見てきた事で「勝手なのは自分だったのでは?」と思い始め、また、道具に近い感情を持っていた事を恥じ、彼女らは仲間なのだ強く自覚する。心をついに、とまではいかないが、ある種の閉鎖を持って特異点へ。</p> <p>ep7: 特異点を倒し、黄昏る魔法少女達。『キリギリ、だったわ』『腹立たしい』と、結局、結果としてはオムニスが正しかったのか、という雰囲気。『仕方がない、「これからもよろしく」という事にしてやる』という流れで、握手でもしようか(手無いけど)というタイミングで、強烈で巨大な雲みが発生。セイレーン三兄弟が降ってきて、次回予告。</p>	<p>【質問】謝罪を通して、魔法少女たちへのお勤めではなく、一個の個人として魔法少女達と触れ合っていくオムニスは、段々と「自分が本当に彼女たちに無礼な事をしてきたのでは?」と思い始める。そして、セイラ・ここあ・陽影・リリ・花織。元から居た6人は、新規の7人よりも怒りの根は深く、どう対応したのかもと案外に暮れている。【質問】『うーん、とりえず、陽影かな(蒼・丹もいるし)』と陽影を説得に行こうとカラオケに行くと、普通に居た。『戻ってきてくれるのか?』『……別に、元々悪魔退治を誓ったわけでもないし、拠点に集まれるのに集まらないのは非効率的。ただ、それだし』『……陽影、俺はさ』『黙って』『……』沈黙が続く。そこで、蒼・丹も来た。「陽影」陽影ちゃん』『……やっぱり来た』『それや前が居るから』『聞かないかもしれない』『うん、居たじゃないけど』通い合う三人。……僕ば、君を信頼したことは一度もない』『うん』『今後無礼と思ってる?』『うん』『けいこ、腹立たしいけど、結果だけを見れば納得はしてるんだ』『……』『嫌じゃないんだ。こんな風に……嫉妬されるのも、心配されるのも。だから』丹・蒼・エリザを見つめ、オムニスを睨んだ。「この怒はいつか支払わせる』『判子さ、これからの行動で受け取る』そう言って、目録を切った。</p> <p>セイラを説得しにA校内を探すと、セイラはまた音楽室から音が漏れてくる通り廊下で行んでいた。オムニスを見て無言で立ち去ろうとするセイラを、いろはが止めた。「待っているはちゃん』『聞くことなんて無いわよ、どうせ適当に言い訳されるだけでしょう?』図星なので言い返す言葉はないが、口を開かないわけにいかない。『……ごめん』『それは何に対して?』『わかんねえ』正面に応える。ハッとセイラは嘔吐するように突いた。「わかんない、か。わかんないことをわかんないまま謝ってんだ?』『なるほどねえ』そうすると、手を持ったリリをいろはに掲げて見せた。「ほら、見ていろはは先生にまた頼まれごとしちゃった』『なんでもなんの引き受けちゃうんだろ?』『わかんない。私にも、わかんない。』そう言って、オムニスの方を見た。「オムニスはもう分かってる? なんで私達魔法少女になっているのか? なんで私達戦わなきゃいけないのか? なんで私達なのか?』『分かんないよね、わかんないって書いててもんね』『わかんないまま、右往左往してるんだよね……オムニスも』そんなふうな、観念的な話が続き、『でも、もう、大切にっっちゃったから』そう言って、セイラは背を向けた。「カラオケにも行くようにする』『ただ、そのときはここあも連れて来てよね』『説得は、私はしない』そう言って、セイラは立ち去った。</p> <p>ここあは層上に居た。『ひゃあ、風が気持ちいいねえー』『ホントだね!』普通にキョキキ始めたいろはとセイラ。オムニスはタイミングを窺いそうこねて黙って眺めていたが、ふいにここあが振り返った。『オムにゃん、何しに来たの?』『あー、いや、どーして来たの?』『違うわ?』『ごめんさいさいに来たんだよね?』『ま、はい、ズバズバくる。』『駄目だよそういうときはオムニちゃん取らせや、誠意を全く感じられないよ』『う…』『ま、取らせたい気は無かったけどねえ』風が、強い。</p> <p>『ここあちゃん、あのね』『あー、だいたいじいじいじい、セイラちゃんから聞いてるしー』(なんだんだセイラは通したのか)ここあは子供に聞いて聞かせるように顔を近づけた。『オムにゃん、貴方は最低です』『最低最悪のクソです。謝って許してもらおうって、思ってる事自体がおかしいです!』『でも、ここあは貴方を許してあげちゃいます!』ずいぶん、あっさりとした言葉だった。というか、明確に許すって言ってくれたのキョウくらにいじやね?『何故?』『魔法少女の格好カワイイからね』『オムニロイのが楽しくて、カワイイのが正義でしょ』『……それ、どこまで本気?』『さあ? 女の子は秘密を抱えるものなのです』と、煙に巻くだけ煙に巻いてここあは去っていく。顔みどころが無い奴を、少しだけ猫めたような、そんな気がした。</p> <p>リリはココだ、と思ってゲーセンに行ったら、やっぱりリリが居た。『すげえ、女王20人抜きだ!』『さすが、女王!』『当たり前だ!』女王と呼ばれているらしい。「渋谷の女王リリ様、こんにちは』『そういうジョークはミリも突えねーから、邪魔』シッ、と手で遮られる。「あのね、ヤリリン』『ヤリリン、って、あーし』『うん、槍水リリだから、ヤリリン』『……かなかなトンドセシスしてね、いろは』ちょっと動揺したのか、リリは対戦相手に向きかけた。(場面転換)</p> <p>『……ん、何よ?』『あのね』『悪いけど、いろはは黙って……そのいののお守りなんでしょ?』そう言って、リリはオムニスを睨んだ。「良い言い訳でもみつかった?』『残念ながら』『やっぱり、理由もクソも、起こったままなんですよ』と、そんな流れで説得開始。</p> <p>色々を怒りやぶつけられるが、最終的にはマリアンヌがやるつーなやるといふ話になる。ただ、ケジメは必要だ。だから今日まで持った。という話。大人に、事務的に対応されたという印象を与えた。</p> <p>最後に、花織へ。花織はあれから魔法少女達のあつまりどころか、学校にもあまり来ていないようだった。いろはの案内で花織の家へ行く事に、花織からは殆どパニックとヒステリーの様な対応をされる。オムニスの説得は、ほぼ聞いてもらえず、いろは中心で説得。自室のどろろを固く閉じた花織の部屋の前で、いろはは懐かしいお話をしようとして『花織が受験に失敗して不登校になった話』と、自身の嫌な記憶をえんてくる話をしてくるいろはに花織は怒るが『結局、あのときと同じだよ』という話に、逃げたって、閉じこもったって、変わりやすい。私達から始めるとことじゃない、という流れ。『だから、私も変わらない。あの時みたいに、何日だって、……何事だって、この原を叩くよ』(端から見ると、ちょっと狂気を感じる話になる)</p> <p>諦めたように出てきた花織は、いろはに抱きしめられ「分かったよ、分かった。いろはいつもそうだもんね』『うん、カオリンもいつもこう』『いや、良かったかった』『フンタを許したわけじゃない!』とオムニスへの敬意はそのままだ、花織も戻ってくる事に。</p>	
							<p>特異点を倒し、黄昏る魔法少女達。『キリギリ、だったわ』『腹立たしい』と、結局、結果としてはオムニスが正しかったのか、という雰囲気。『仕方がない、「これからもよろしく」という事にしてやる』という流れで、握手でもしようか(手無いけど)というタイミングで、強烈で巨大な雲みが発生。セイレーン三兄弟が降ってきて、次回予告。</p>

章	旧CPplot	旧EPplot	課題点	変更点	新要件	新CPplot	新EPplot
template	こ0123456789012345678901	こ012345678901	こ0123456789	こ0123456789	こ012345678901	こ0123456789012345678901234567	こ0123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901234567
10 ナミキバ シブレス	白猫がもともとこの可能性とわかれる。さっき殺した悪魔はこの可能性でヒロインの種かだったもの。白猫はとびおが選んできたことで、被害者の側に立ったために構造に気づく。白猫が残っているのは存在強度の差が開いていないため。白猫は世界を受けて世界の構造、魔法少女に選ばれた資格を説明するカミサマン、2巨目の巨大悪魔を退治	白猫が自分のことを説明する。こうなったのは、6章の出来事のおかげである。自分も同じように可能性を渡る能力を行使していたこと。そこに罪悪感はなく、犠牲になったものかにもして居なかった。しかし、この世界に誰とびおも、少女たちも2人存在することは出来ない。ならば席の取り合いで押かれる存在がいるという当然のことに、自分がそうなる切っ掛けが欲しい。『可能性を渡る』とはそういう意味だ。一通り喋り終えた白猫は、自分が勝てば、もう一度席を取り戻せるはずだと『首を洗って待っている』と捨て台詞を残して消えてしまう。数日後、未だに混乱するつとびおと少女たちを無視するように、悪魔達が世界を襲い始め、少女たちとオムニスは悪魔の討伐に追われていく。	・白猫の言葉からでな ・カミサマンからの言葉で最終的な確信を得た ・白猫の前のキャラの語り下げが欲しい。このままだと、ストーリーの為の強制展開に見える。 ・いろはは完全に完全な真実を話すことは、オムニスの責任逃れに思える。許して欲しいという女々しさに見える。飲み込んで、何も言わず『俺が守る』くらいが熱い展開になると思われる。 ・バラシが何度もあったのに、少女たちを見捨ててきた事を知るのが遅い気がする。 ・白オムニスを倒す前に知り、それごと受け止め決意して倒して欲しい。	・少女たちを見捨てて来たという事実を突きつけられ、本当の意味での反省をやっとオムニスはする。 ・許しを請うことすらおこがましいので、少女たちの人生を見せつけられ、自分の存在価値とかそんな矮小なものはどうでもいいから、彼女たちを守らないと決意させる。 ・しかし、オムニスは矮小なもので立ち上がるには一人くらいには許しが欲しい、その役をいろはが担う。 ・黒も白も迷いなく、決意を示す。	・ 気持ちを高ぶらせ、ラストバトルへの決意、必死感を高める ・スーパー放浪(ぐとこらえてみんなにバレないよう反省)タイム ・ 魔法少女たちの普段の生活をオムニスとして覗き見る ・その中でも悪魔戦は行うが、オムニスは複雑な気持ちで、オムニスは触れない。 ・リリとマリアンヌは、理とせめてこの少女たちを守るために何をすべきかを考える ・いろはが「元気出せ!!!」って抱きしめ一戦うしかない!と半分決意 ・次男撃破	ep1: 目覚めると白部屋。スーパーカミサマンタイム発動し、意気揚々とカミサマンがオムニスの能力の仕組みと『お前は取ったと思ってたのかもしれないが、ホントは見捨てて来てたんだよ』という話をする(段々と画面が歪んでいく様な演出がほしいカメラがぼやけていくような)。 食って掛かるような演出(もしかすると、とびお一言だけ喋る? 状況次第)。と同時に、『うぜえ』と意識の電源を切られた。(場面転換) またしても出てきたのは109前だったが、とてもじゃないけどいつものカラオケルームへ行くことは出来ないオムニス。『みんなの言ってる事は、正しかった』『俺は、本当に冀だ』『俺は、俺は、どうしたら……』と、放浪を始めるオムニスであった。 ep2 (内容前後変更する可能性あり): 丹・蒼・エリザ・陽彩の普段の様子。オムニスが一切かわらず、覗くだけの平和そのもの、大切さそのものというエピソード。 ep3 (内容前後変更する可能性あり): ここあとセイラの日常。オムニスが一切かわらず、覗くだけの平和そのもの、大切さそのものというエピソード。 ep4 (内容前後変更する可能性あり): リリとマリアンヌ。依子。はなびの日常。オムニスが一切かわらず、覗くだけの平和そのもの、大切さそのものというエピソード。 ep5 (内容前後変更する可能性あり): いろはは花織のなんでもない日常。最後に、いろはがオムニスがこっそり覗いている事に気づく。 ep6 (内容前後変更する可能性あり): いろはは本当の事を話し始めるオムニス。それは悪魔そのもの。相手に理解も同意も求めていない、説明する気のない感情の暴露。だけど、いろはは優しく受け止め、オムニスを抱きしめた。『大丈夫だよ、オムオム』『ごめんね……あたし、馬鹿だから。言ってること、一個も分かんなかったけど』『でも、信じるよ』『私は、オムオムを信じる』『――私達は、オムオムを信じてる!』 その言葉に、グチャグチャだった想いが、一つにまとまるのを感じた。『彼女たちを、今度こそ、本当に守らなきゃ』それだけは、揺らがない事実だ。そんな中、特異点が発生して、『――行こう』オムニスは覚悟を決めたのであった。 ep7: 次男撃破。恨み節を言う白オムニス。しかし、もうオムニスはそれには動かない。その横に、白オムニスの方も思うところがあったようだった。『お前……分かったのか?』『さあ? 分かってないと思う。お前は?』『分かるわけないだろ、分かってたまるか』『そうか』『ああー』『でもー』 『――やることは決まっている』 お互いの決意が一致して、白オムニスは消えた。『――さて』『連れてけよ』 抜きが聞かえたのかどうなのか、オムニスの意識は勝利に沸く魔法少女達の風景を刺で消えていった。 次回予告。	目覚めると白部屋。スーパーカミサマンタイム発動し、意気揚々とカミサマンがオムニスの能力の仕組みと『お前は取ったと思ってたのかもしれないが、ホントは見捨てて来てたんだよ』という話をする(段々と画面が歪んでいく様な演出がほしいカメラがぼやけていくような)。 食って掛かるような演出(もしかすると、とびお一言だけ喋る? 状況次第)。と同時に、『うぜえ』と意識の電源を切られた。(場面転換) またしても出てきたのは109前だったが、とてもじゃないけどいつものカラオケルームへ行くことは出来ないオムニス。『みんなの言ってる事は、正しかった』『俺は、本当に冀だ』『俺は、俺は、どうしたら……』と、放浪を始めるオムニスであった。 丹・蒼・エリザ・陽彩の普段の様子。オムニスが一切かわらず、覗くだけの平和そのもの、大切さそのものというエピソード。 ここあとセイラの日常。オムニスが一切かわらず、覗くだけの平和そのもの、大切さそのものというエピソード。 リリとマリアンヌ。依子。はなびの日常。オムニスが一切かわらず、覗くだけの平和そのもの、大切さそのものというエピソード。
							(※ep5とep6の統合しました)いろはは花織のなんでもない日常。最後に、いろはがオムニスがこっそり覗いている事に気づく。いろはは本当の事を話し始めるオムニス。それは悪魔そのもの。相手に理解も同意も求めていない、説明する気のない感情の暴露。スチル挿入:だけど、いろはは優しく受け止め、オムニスを抱きしめた。 変更前 < 『大丈夫だよ、オムオム』『ごめんね……あたし、馬鹿だから。言ってること、一個も分かんなかったけど』『でも、信じるよ』『私は、オムオムを信じる』『――私達は、オムオムを信じてる!』 > 変更後: 観わなくてもそうなるんだよね?』『どうせ観わなくてもそうなるし、戦っても負ければそうなる。アタシ達は何度も負けて人じゃ無くなっちゃったけど、オムオムの能力のお陰で今日も元気。』『だから大丈夫、オムオムを信じるよ』 的、なう少しいろははなりの解釈が言葉として出てくる内容に。その言葉に、グチャグチャだった想いが、一つにまとまるのを感じた。『彼女たちを、今度こそ、本当に守らなきゃ』それだけは、揺らがない事実だ。そんな中、特異点が発生して、『――行こう』オムニスは覚悟を決めたのであった。 次男撃破。恨み節を言う白オムニス。しかし、もうオムニスはそれには動かない。その横に、白オムニスの方も思うところがあったようだった。『お前……分かったのか?』『さあ? 分かってないと思う。お前は?』『分かるわけないだろ、分かってたまるか』『そうか』『ああー』『でもー』 『――やることは決まっている』 お互いの決意が一致して、白オムニスは消えた。『――さて』『連れてけよ』 抜きが聞かえたのかどうなのか、オムニスの意識は勝利に沸く魔法少女達の風景を刺で消えていった。 次回予告。

章	旧CPplot	旧EPplot	課題点	変更点	新要件	新CPplot	新EPplot	
template	こ012345	こ0123456789012345678901	こ0123456789	こ0123456789	こ012345678901	こ0123456789012345678901234567	こ0123456789012345678901234567890123456789012345678901234567890123456789012345678901234567	
12	世界崩壊の話など、全体のネタバレ 白猫が消滅して暴走するフォーリンというは(現ダブルというは)との最終決戦。ちなみにこいつは喋るかもしれない。	悪魔化した(敵) いろはが「死にたくない」と何度も叫びながら何処かへ消えていく。次の瞬間、世界が大きなユラギに包まれ、多数の悪魔が現れる。 ただ事ではないということと即座に全員が悟る。みんながこの影響は敵いろはによるものだろうと考えたらが、あの悲劇な叫びを前にして言葉に出来ない。その沈黙を破り、あの字を倒そうと言いついたのは、他でもないいろはだった。それによって戦う覚悟を決めるメンバーたち。	・悪魔化いろはでなく、ダブルいろはがイキになっているので「死にたくない」はおかしい ・カミサマンが色々言いついたのは本当に最後にした。 ・悪魔化いろはは性(+巫生)の喜びに打ち震えている。 ・雑魚大量発生 ・魔法少女達は決意を語らせ、熱くする。 ・とびおという存在をユーザーにきづかせるのはここで。 ・カミサマンタイムは最後に(アニキも言うかも)	・ダブルいろはは娘(光・闇)誕生後に、「キャハハ」とか言ってゲートを使って白部屋に逃げ込む ※ゲートをどう表現するのは要確認 ↓ ・ダブルたちに引き寄せられた雑魚悪魔が大量発生 ↓ ・頑張ってみんなで倒しながら、それぞれの魔法少女達の決意を語る(C高校メンバー)	・ダブルいろはは娘(光・闇)誕生後に、「キャハハ」とか言ってゲートを使って白部屋に逃げ込む ※ゲートをどう表現するのは要確認 ↓ ・ダブルたちに引き寄せられた雑魚悪魔が大量発生 ↓ ・頑張ってみんなで倒しながら、それぞれの魔法少女達の決意を語る(B高校メンバー)	・一目的着地を見せる。盛り上がり重視 <<12章ダブルいろはは戦に關して>> 前提：ダブルいろはは母が白オムニスの残骸を飲み込んで、魔妊婦→娘2体誕生 前提：ダブルいろはは娘(光・闇)はある程度喋る ↓ ・ダブルいろはは娘(光・闇)誕生後に、「キャハハ」とか言ってゲートを使って白部屋に逃げ込む ※ゲートをどう表現するのは要確認 ↓ ・ダブルたちに引き寄せられた雑魚悪魔が大量発生 ↓ ・頑張ってみんなで倒しながら、それぞれの魔法少女達の決意を語る ↓ ・一通り倒し切り、ゲート前で佇む一行 ↓ いろは「あたしがいく」とけじめをつける決意 ↓ ・感動する仲間達(一応全員団結完了) ↓ ・ゲートに飛び込み、画面真っ白になる ↓ ・インゲームラストバトル ↓ ・バトル終了後、主人公としてとびおが「ふう やっと終わったか」とか言う ↓ いろはは遠、とびおに気づき、「ところで君・・・だれ・・・？」 ※スチル入る ※このタイミングからいろは達は画面に向かってしゃべり出す ↓ ・カミサマンタイム ↓ ・他の世界のいろははたち登場 ↓ サバトの説明的なを受ける ↓ 俺たちの戦いはこれからだ！ ↓ 終わり	ep: 巫生の喜びに打ち震えるどっペるいろは達。 どっペるいろはに引き寄せられ、大量の悪魔が発生する。 『なんか、ここせまい』『どっか行くべ』的にゲート作成、どっかいく。 後は大体、右の通り。	・頑張ってみんなで倒しながら、それぞれの魔法少女達の決意を語る(B高校メンバー)
	ゲートからやってきた別の自分たちに話しかけられ、困惑する少女たち。あつげに取られているとびおに、本を投げつけるカミサマンは急に説明を始める。 カミサマンはこの世界のシステムをキセキシステムと呼んだ。最初に言ったとおり、この世界全てが崩壊に瀕している。その崩壊を止めるために、あらゆる可能性の中から、少しでも世界が延命できる方法を探す、それがこのシステムの目的だ。あらゆる可能性の中から、最も強い運命を持つものが世界の在り方を決める、まさに人ながら神となる。しかし、1人の人間が抱え続けるには、世界の命は長すぎる。だから交代し続けることでこのシステムは永遠につづく。交代者は、神の物語を書き換えるヒーローやヒロインでなければならない。つまり最愛の者でなければならない。カミサマンにとってそれがとびおだった。そのとびおの無数の可能性の中でも、強い運命を持つものだけが、この白い世界に足を踏み入れることが出来る。そこまで来たのだと。 「これから行われるのは、神の交代劇。ここに集まる無数の可能性の中から、最も強い運命を持つものを作り出す。そのために希望の壘番を用意する。これから行われるのはその勝者は次代の神となる運命に有り、世界を書き換える。旧き神を殺して。でも、それは最愛のものであるからこそ許せる行為。最強になってお迎えに来てよ、待ってるからね。アニキ。」 的なことを言って去っていくカミサマン。呼び止めるが聞かず、集まった可能性の少女たちに巻き込まれ、ギルドバトルのチュートリアルが行われる。	敵いろはを追って白部屋へ。白部屋で最終決戦。 とびおと少女たちが出会い、オムニスの中の人だと告げる。とびおを見て、全員が何しかのデジャヴを覚え、口々にそれを口にする。あいさつもそこそこ、的に向き直り臨戦態勢を整えるメンバー達。 対峙し向き合う少女たちに最終決戦前の鼓舞を行うとびお。彼は改めて、自らの意志で敵いろはを殺すことを決め、自分が全ての責任をおって引き金を引くことを宣言する。この少女たちを、少女たちとともにある自分を守るために。 その鼓舞に呼応して、敵いろはも戦闘態勢を取った。	・感動する仲間達(一応全員団結完了) ↓ ・ゲートに飛び込み、画面真っ白になる ↓ ・インゲームラストバトル ↓ ・バトル終了後、主人公としてとびおが「ふう やっと終わったか」とか言う ↓ いろはは遠、とびおに気づき、「ところで君・・・だれ・・・？」 ※スチル入る ※このタイミングからいろは達は画面に向かってしゃべり出す ↓ ・カミサマンタイム ↓ ・他の世界のいろははたち登場 ↓ サバトの説明的なを受ける ↓ 俺たちの戦いはこれからだ！ ↓ 終わり	・頑張ってみんなで倒しながら、それぞれの魔法少女達の決意を語る(A高校メンバー)	・一通り倒し切り、ゲート前で佇む一行 ↓ いろは「あたしがいく」とけじめをつける決意 ↓ ・感動する仲間達(一応全員団結完了) ↓ ・ゲートに飛び込み、画面真っ白になる	・インゲームラストバトル ・バトル終了後、主人公としてとびおが「ふう やっと終わったか」とか言う スチル挿入③: いろはは遠、とびおに気づき、「ところで君・・・だれ・・・？」 ※スチル入る ※このタイミングからいろは達は画面に向かってしゃべり出す ・カミサマンタイム(必要なネタバレ全て) スチル挿入④: 他の世界のいろはは達登場 ・サバトの説明 ・俺たちの戦いはこれからだ！		